

## 【評議員会議事録】

日 時：2009年6月27日（土）13時～17時

場 所：東京大学理学部4号館1320号室

出席者：井上，海部，柴田，須藤，中川，永田，宮川，坂田，佐藤，杉山，谷口，筒井，望月（以上13名）

書面表決状提出者：家，岡村，郷田，渡部，池内，  
観山（以上6名）

欠席者：山田（以上1名）

他に國枝理事長，渡邊副理事長，竹田・高田庶務理事，田代会計理事，東條事務長，宮下次期事務長が出席した。

議事に先立って議長と署名人の選出がなされた。

議 長：望月優子

署名人：海部宣男，井上 一

### 〔報告〕

#### 1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて前回（2009年3月26日）の評議員会議事録が報告・確認された。

#### 2. 秋季年会について

竹田庶務理事より次回2009年秋季年会（山口大：9月14～16日）の準備の進捗状況が報告された。おおむね順調に進んでいる。講演会（9月12日）の講師は決定（開催地山口に関連の深い戎崎氏，松尾氏）。

大学キャンパスの会場費（一般なら80万円必要）を節約するために本年秋季年会は山口大学理学部の後援名義で行うことにした。不足が懸念されていた宿泊施設については特に問題はなさそうであるが，温泉町で観光シーズンでもあるので極力早めの予約が望まれている。

#### 3. 今後の年会について

来年2010年の年会の準備状況が当日配付資料「今後の年会について」に基づき竹田庶務理事より報告された。2010年春季年会（広島大：3月24～27日）は会場も確定し特に問題もなく準備は進んでいる。公開講演会に併せて希望者に対して東広島天文台の見学ツアーも企画することにした。2010年秋季年会（金沢大：当面9月22～24日の予定）は日程が大学の後期授業開始に近い時期なので学生ガイダンスの行事と重なり合う可能性が出てきたとのこと。したがって場合によっては日程あるいは会場の変更を余儀なくされるかもしれない（今年の10月頃には状況がはっきりする見込み）。

また，再来年以降の2011年と2012年の年会については開催地が決定したことが報告された。2011年春は筑波大学，2011年秋は東北大学，2012年春は京都大学，2012年秋は大分大学。

#### 4. 正会員の新規入会申込書書式

正会員の入会資格が学生と一般で二重基準になっている現状の改善に向けて検討課題となっていた正会員の入会に際する付加条件（申請書に入会目的を記入させたり，あるいは会員の推薦を義務づけたりするなど）については，実務理事と事務所職員の意見も踏まえて，「推薦者たる正会員1名の自筆の署名を必要とする」を新たに採用する方針に決め，その方向で作られた新たな入会申請書案が資料2に基づき竹田庶務理事より紹介された。これに対しては，「これは単なる報告ではなく正式に議題にしてきちんと承認してから実施するべきではないか」との意見が出されたので，改めて次回の評議員会で議題にすることになった。また，この書式の中にある個人情報の名簿記載の可否を選択させる項目については，「入会申請書式では個人情報を書かせることはどうしても必要であるが，名簿への記載云々は別途問うべきことがらであり切り離して考えるべきだ」との指摘が出され，この欄は削除して「個人情報については入会手続き以外の目的には使用いたしません」との記述を加える方向で改訂案を作ることになった。

#### 5. 巡回展示について

全国5カ所を巡る日本天文学会共催の世界天文年の展示会の皮切りとして先日スタートした上野の国立科学博物館での企画展（5月30日～7月20日）の様子が國枝理事長よりスライドを用いて紹介された（宣伝のチラシが資料3）。これ以降は仙台～新潟～大阪～名古屋と各地を巡回する。「この企画は入館者も多く皆熱心に観覧しており大いに成功している」と高く評価する意見も出された。

## 6. 七夕における一斉講演会イベントについて

3月の評議員会で提案されて急速に話が進み実現化した「7月7日の七夕の日の頃に全国で一般向けの天文の講演会を集中的に実施する企画」の進捗状況が、実行委員長でもある柴田副理事長より報告された。（宣伝のチラシが資料4）呼びかけに対してすぐに多くの機関から好意的な反応があり、現在の時点で全国各地延べ91カ所の会場で108人の講師による講演が確定している。各種新聞でも報道されており、6/13に京都新聞に掲載された記事が追加資料として配布された。

## 7. 委員会委員の交代・増員

竹田庶務理事より資料5に基づいて委員会委員の交代2件（前任者が外国に転任するため）ならびに増員2件（マンパワー補強目的のため）が以下のとおり報告された（敬称略）。

衛星設計コンテスト推進委員：

井上 允→上野宗孝(JAXA)

選挙管理委員：新井宏二→矢野太平（国立天文台）

欧文研究報告編集委員：久野成夫（国立天文台）

天文月報編集委員：浜名 崇（国立天文台）

## 8. その他

### 8.1 次期事務長について

本年一杯で定年退職される天文学会事務所の現事務長の東條氏の後任の事務長が、この3月で国立天文台を退職された宮下暁彦氏に決まり、正式な就任は2010年からであるが、引き継ぎのためにすでに本年5月から勤務しておられることが竹田庶務理事より報告された。本日この場に出席されている宮下氏からも簡単な挨拶があった。

### 8.2 評議員選挙の結果報告

任期が2010～2013年の第18期評議員候補者の選挙が5月20日～6月19日の期間で行われ、6月23日に開票されて以下の10名の方々が候補者として総会に提出されることが竹田庶務理事より報告された（敬称略）。

継続再任：岡村定矩，海部宣男，渡部潤一，

須藤 靖，井上 一。

新任：奥村幸子，伊藤紘子，劉 周強，牧島一夫，嶺重 慎。

また、若手の会から推薦されて選出される現役院生の若手評議員に関して「推薦者はどのように選ばれるのか、任期途中で就職した場合はどうなるのか」、などいくつか質疑応答があった。

### 8.3 100周年記念出版事業編集委員会報告

本日欠席の岡村氏（100周年記念出版事業編集委員長）に代わって竹田庶務理事より当日配付資料に基づき「シリーズ・現代の天文学」の刊行に関する進捗状況が報告された。現時点で未刊の3巻については第7巻「恒星」（7月17日配本）と第16巻「宇宙の観測II-電波天文学」（8月中旬配本）については確定して、残すところは第11巻「天体物理学の基礎I」のみになった。これは9月の配本を目指しているが首尾良く達成して全巻刊行をなるべく早急に達成したい。

### 8.4 年会期間中の各種会合のプログラム記載について

望月氏から、当日配付資料を基に、「年会中に開催される各種会合（委員会、光天連などの研究連絡会等）の開催日時や会場を（月報や予稿集に掲載される）年会プログラムに明記し、併せて一般参加の可否の情報（オープン化の程度）を明らかにしてはどうか」との提案があった。これによりどのような学会活動がなされているかということが関係者以外の会員にも明快になるばかりでなく、会合に一般参加者を募ることができるようになり、事前に参加計画を立てることも容易になるため、会合や会員間の意見交換をより活発化することが期待される。特に異論はなく、年会実行委員会とも連携を取ってこの方

向で話を進めることになった。

## 8.5 男女共同参画活動、学術会議等の状況報告

海部氏より資料6に基づき日本学術会議主催男女共同参画シンポジウムにおける発表の報告がなされた。特に、天文学分野における女性研究者数の推移と日本における理工系人材の社会進出状況の欧州諸国との比較について説明があった。天文学会の女性会員は1980年代から急増が始まっており（理由はまだ不明）、現在は約12%を占めようやく我が国の他分野並になったこと、日本は男性優位（トップ層に女性が少ない）のみならず文系優位（中央官庁の上級ポストや政財界の指導者はほとんど文系が占めている）になっており人材利用ができていないことが指摘された。天文分野の統計については各大学の関係者の協力も仰いでデータを充実させて今後もっと詳しい分析を進めたい。

また学術会議の話題として、長期計画に関する第三部（理学・工学）のワーキンググループ立ち上げ、若手の育成を目指した若手研究者による組織の構築計画、などが報告された。これにからんで大型計画に対するアンケートに関する質疑応答もなされた。

## 8.6 世界天文年関連の報告

当日配付資料に基づき、海部氏より世界天文年関連活動の各企画の進捗状況や経過の報告があった。日食グラスの普及、「君もガリレオ」プロジェクト、ガリレオ先生養成講座、星空ブックフェア、世界天文年セレクション（良質な天文関連商品の選抜）、まんが「ガリレオくんと仲間たち」、世界天文年エッセイ賞公募、など。また5月11-13日に開催された「アジアの星・宇宙の神話、伝説」国際ワークショップの様子も簡単に報告された。日本における星の神話・伝説は、本土には少なくむしろアイヌと沖縄に多いことは興味ある特徴として特筆される。

## 8.7 学会Webページの改善に向けて

國枝理事長から「現在の天文学会のWebページは会員にとって必要な最低限の情報は提供しているが、会員以外へのもっと広い世界に対する情報発信という観点からは甚だ不十分なものととどまっている状況を鑑み、学会Webサイトの抜本的な改善を目指して（方針を議論してできることから着手する）ワーキンググループを立ち上げたいので皆さんの協力をお願いしたい」との発言があった。これに対して、物理学会での実績や各大学での取り組みの例など、早速参考になる意見が出された。

## 8.8 理事長公選制について

現在の天文学会理事長の選出（慣例で現執行部が現副理事長を含めて候補者を提案、理事会・評議員会で推薦、総会で承認）においては候補者が狭い範囲からになりがちで各会員の意志が反映されにくいので、この問題点の改善するために、「会員が直接公選で理事長を選ぶ」公選制度の導入を検討していることが当日配付資料を基に國枝理事長から報告された。参考のために日本物理学会、日本惑星科学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、応用物理学会、その他の四種学会の場合での長の選出過程の状況も資料を基に紹介され、議論のたたき台としての試案（会員から推薦された候補者に対して会員の投票で決定）と実施するうえでの具体的な問題点（推薦の方法、被推薦者の意志の確認、理事会・評議員会の役割、選挙の方法、など）にも言及があった。

これに対して「候補者ははっきりした所信表明をして欲しい」、「現在の定款（評議員会で推薦された候補者を総会で承認する）と公選制はそぐわない（公選で選ばれた人を評議員会が推薦するとは限らない）」などいくつかの意見が出された。さらに案を煮詰めて今後の理事会・評議員会・総会でも報告し議論を継続することになった。

早ければ来年にも選挙を実施して2011年からの次期理事長を選出することを目標にしたい。

## 8.9 宇宙基本計画について

井上氏から、昨年制定された宇宙基本法に基づき、6月2日に宇宙基本計画が決定されたことが報告された。五つの利用システムと四つの研究開発プログラムが設定され、宇宙科学はその中の一つのプログラムとして置かれている。宇宙科学の立場から書き込んで欲しかった基本的な内容はほぼ組み込んでもらうことができた。

### [議題]

#### 1. 2010年度事業計画書案

2010年度事業計画書案について、竹田庶務理事より資料7に基づいて説明が行われ承認された。ただ、理事会・評議員会の開催予定時期が実情にそぐわないものになっていることが指摘されたので、この点は改訂する。この計画書案の中の「民間の賞に対して学会から優れた研究者を推薦するように努める」という件に関して、「具体的にはどのような賞があるのか」との質問が出された（井上賞、東レ賞、朝日賞など）

## 2. 2010年度収支予算書案

2010年度収支予算書案について、田代会計理事より資料8に基づき一般会計と特別会計それぞれについて説明が行われ、細かい内容（収支の明細、星座早見の収入、賛助会員の動向、寄付収入、など）についてのいくつかの質疑応答があった後、本案で承認された。

## 3. 会費に関する細則の改訂

田代会計理事より資料9に基づき会費に関する細則改訂案が示された。現行の（年度末に次年度の会費を納入する）やりかたでは多大の内部留保を有することになって不都合を生じるので、支払時期をずらせて年度開始後の3カ月以内（1, 2, 3月）に納入することにするものである。また、併せて会費納入を遅延した場合に課せられる付加料金の呼び方をこれまでの「延滞金」（主として税金の場合の用いられる言葉で利息に対応するもの）からより実情にふさわしい「事務手数料」に変更することにした。出席者からは、「入金を忘れて滞納になった場合、出版物が来なくなって気づいたときにはすでに付加手数料が発生しているのは気の毒ではないか」、「3月末までの納入にすると会計年度が3月末に変わったと誤解されるのではないか」、「3月の春の年会の受付の際に未納者をチェックして催促・徴収してはどうか」、などさまざまな意見も出されたが、本案で承認された。

## 4. 研究奨励賞内規の変更

竹田庶務理事より、資料10に基づき、石田研究奨励賞選考委員長から「より広い分野をカバーするために委員の数を現行の5名から1名増やして6名にしたい」との要望が出されたことについて説明があり、これに応ずるために内規において規定されている委員の数を5名から6名に変更することが提案され、了承された。

## 5. 休会制度の創設

竹田庶務理事より資料11に基づき、病気や留学などの正当な理由がある場合は2年を上限として会員活動を一時的に停止できて会費納入が免除される（tennetのメールだけは従来どおり受け取れるし会員番号は復帰したらそのまま継続できる）休会制度を設ける試みが説明され、その申請のための書式（休会届と復会届）の案が紹介された。

「退会してまた入会することと実質的に同じことではないか」、「細かい事例に対する対処の手順が準備されていないのでは」、「たとえば精神的な疾患で休会する者にとっては診断書の提出を強く義務づけるのはプライバシーの観点からは酷ではないか」、などの点も指摘されたが、「とりあえずスタートさせてみてその結果問題点が出てきたら逐一検討して必要に応じて制度の内容を改善していく」ことで承認された。ただ実際に予測される事例に関する説明がまだ十分完備していないので「2年の満期が経過した時点でどうなるのか（基本的に自動的に復会の扱い）」などの補足事項を付記しておくことになった。

## 6. 秋季総会議題

竹田庶務理事より、資料12に基づき、来たる秋季総会で取り上げる予定の議題案（事業計画書、収支予算書、会費の細則改訂、新評議員メンバーの承認）と報告案（休会制度、研究奨励賞内規変更、世界天文年）が紹介された。報告の項目に関してさらに理事長公選制と学術会議関連の二つを加えることにして承認された。

### [次回の評議員会]

次回の評議員会は秋季年会の期間中に行われる（これまでの慣例では第二日目の9月15日の昼時になる予定）。

2009年7月14日

議長：望月優子

署名人：海部宣男  
署名人：井上 一